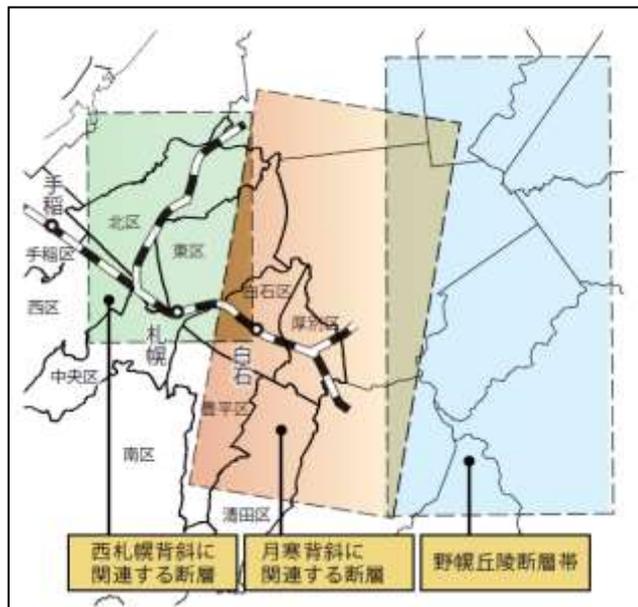


札幌市直下に存在する伏在活断層の地震動予測と地震災害への備えの必要性

1. 札幌市直下に存在する3つの伏在活断層



出典: 札幌市ホームページ

○地震は、地下で岩盤の「ずれ」が起きることで発生します。
この「ずれ」のことを「断層」と言い、過去に地震を起こし、今後も地震を起こす可能性がある断層を「活断層」と言います。

○活断層のうち、地表面から断層そのものを確認できていないものを「伏在活断層」と言います。

○札幌市にも、大きな被害をもたらす地震を起こす可能性のある伏在活断層が3つ存在します。

- ①野幌背斜に関連する断層(「野幌丘陵断層帯」)
- ②月寒背斜に関連する断層(「月寒断層」)
- ③西札幌背斜に関連する断層(「西札幌断層」)

○いずれの伏在活断層による地震でも最大で震度7、地域の大半で震度6強以上の揺れが予測されています。

2. 直下型地震に備える必要性

○2016年4月の「平成28年熊本地震」や2018年6月の大阪北部地震は、札幌市で想定されている地震同様、直下の断層帯の活動によって発生する「直下型地震」に分類されるものでした。

○直下型地震では、震源が地表面に近いので、大きな地震が起きると避難する間もなく下からドンと突き上げるような揺れが感じられ、一瞬のうちに家具が倒れる危険性があります。また、地震に弱い住宅が壊れてしまうなど、甚大な被害につながるおそれがあります。

○地震が発生する危険性や、実際に地震が発生した場合の想定震度などを正しく把握したうえで、ご自身・ご家族にとって必要な対応を整理し、事前にしっかりと備えておきましょう。